

研究会	第一回 GIARI 定例研究会
テーマ	GIARI 国際シンポジウム 人の移動とアジアの地域統合—国際教育・労働市場の現状と政策的リスポンス—プレセミナー
報告者	園田茂人（早稲田大学 G-COE : GIARI）、黒田一雄（早稲田大学 G-COE : GIARI）、白木三秀（早稲田大学 G-COE : GIARI）計 3 名 司会：松岡俊二（早稲田大学 G-COE : GIARI）
日時	2008 年 11 月 10 日（月）18 時~20 時
場所	早稲田大学 19 号館 710 教室
参加者	報告者含め 計 25 名

## 1. この研究会の目的（主に松岡先生より）：

- (1) シンポジウム全体の狙い・流れを確認する。
- (2) 問題提起者と各セッション担当者の中で、シンポジウムでどのような議論を行うか、その意図はなにか、などを確認する。
- (3) シンポジウムの議論と COE の社会・文化領域との関連性を確認する。

## 2. 報告概要：

### 2. 1 園田茂人「流動化するアジア統合研究への社会・文化的アプローチ」

- (1) 従来、地域統合を社会学が取り上げることはなかったが、実は古典的社会学の中に地域統合の議論があり（テンニース、高田の合理化の進展と世界社会誕生の議論）、それは現代の労働市場・教育市場でそれは定型的に表れている。
- (2) 「市場」という概念と「共同体・統合」という概念がどのように結びつくか。
  - ・デュルケーム：「規範」「価値」の共有。
  - ・ヴェーバー：いかなる条件が「支配」を可能にするか。  
→「地域統合」を考える時に重要な視点を与えている。
- (3) 市場的交換の背後で「規範」「支配」が生まれているのか。
  - ・「学校」「企業」という制度：「規範」を生みだし、「支配」を正当化する。  
→大変重要なポイントになると考える。
    - 1) 学生の移動が地域共同体形成の「下部構造」になっているか。
    - 2) 市場形成以上のものを生み出しているのか。

- (4) 高等教育と労働市場のリンケージを考える必要がある。
- ・両者が「規範」「価値」とどのように結びついているのか。
  - ・留学と就労は結びつく。  
→他国の企業に就職したがる留学生（アジア学生調査）。
- (5) 市場の中の「価値」と「支配」
- ・高等教育の「アジア化」  
→どのような「価値」を生み出すか。  
新しい支配につながるのか。
  - ・労働市場の「アジア化」  
→どのように人々に認知されるか。  
政府や企業はどのように見ているか。

## 2. 2 黒田一雄「Asian Regional Integration in Higher Education and Japanese Policy Responses」

- (1) 高等教育と地域統合を結び付けた研究は少ない。  
→既存の地域統合研究の手法を使って高等教育における地位統合研究を考える。
- ・既存の研究
    - 1) デファクトの確認。
    - 2) 概念の形成と歴史的展望。
    - 3) 既存の枠組の研究。
    - 4) アクターの研究。
    - 5) 他の地域との比較。
- (2) 代表的な高等教育交流の理念
- ・国際交流と平和（相互理解）の構築。  
フルブライトなどの留学プログラム、エラスムス計画など。
  - ・アイデンティティの構築。  
→「支配」と「価値」との関連性。
    - 1) ヨーロッパ・アイデンティティの構築
    - 2) ASEAN でもアイデンティティを議論。  
アジアのリーダーを作るという「価値」は ASEAN やいくつかの国に存在する。
  - ・地域的競争力の増強戦略。

- 1) 1986年にエラスムス計画が始まる。  
→米ソへの対抗。
- 2) アジアの場合、留学生を欧米へ送ることが近代化につながるという発想。  
→最近では学生を受け入れることの経済効果も顕在化。

・デファクトとして、アジアに高等教育市場はできている。

- 1) 域内交流は大きくなっている。
- 2) 国立大学の民営化、独立行政法人化、私立大学の設立。
- 3) 中国の教育需要が大きくなっている。

→課題は、市場の失敗を乗り越えて、市場を健全なものにすること。

教育の質の保証、単位交換制度など。

(3) 日本の政策的レスポンス。

・アジア版エラスムス（福田首相）。

- 1) エリートの交換留学なのか。
- 2) たくさんの人たちを動員するメカニズムを作るのか。

→アジアの高等教育は、欧州よりはるかに多様。

・アジア版ボローニャプロセスを議論した方がいいという意見。

- 1) エラスムスは学生交流
- 2) ボローニャはシステムの統合、制度設計。

→高等教育の単一市場を作ることを目標とする。

(4) 高等教育と地域統合の理論化。

・国際教育の支配的理論：従属論(アルトバック)

→アジアには当てはまらない。

・雁行形態論—高等教育では、日本が先頭ではない。

→アジア独自の理論化が考えられないか。

## 2. 3 白木三秀「問題提起を受けて」

(1) 人材移動の種類：デファクトとしてのアジア地域統合。

- ・留学(流入)、技術、人文知識・国際、企業内転勤など。
- ・留学(流出)は欧米豪の英語圏が中心。
- ・企業内移転による流入はアジアを超える範囲になる。

流出は中国・ASEANを中心としてアジア域内が半分を占める。

(2) エージェントの関与と課題：

- ・日系多国籍企業の国際人的資源管理のあり方。  
→アジア域内の日系企業がアジアの人材をどれだけ枢要なポジションで活用できるか。
- ・日本人のアジアへの派遣はトップマネジメントが中心。  
→中長期的には国籍を問わず適切な人的資源管理が求められる。

(3) 流動性と地域統合のあり方：

- ・時間軸・地域軸の双方からアジア地域統合のデファクトを考える。
- ・デファクトとしての「アジア地域統合から外れているインドの存在は重要なポイント。

(4) 日本における政策的ポイント：

- ・留学、就労における日本政府の積極姿勢は明らか。
- ・どのように日本企業・大学の魅力を高めるか。

### 3. 質疑応答

参加者からの主なコメントは以下の通り：

- (1) 地域統合への社会・文化機能からのアプローチというとき、なぜ市場からアプローチするのか？また、国家・政策的リスポンスなのか？なぜダイレクトに市民社会に焦点を当てないのか。
- (2) 労働・教育市場から「社会統合」の議論をするのは特別な意義があるのか。
- (3) 国際関係の理論を用いる必要性はないか。
- (4) 労働市場について：
  - ・外国人労働者は多様。  
→日本では、外国で教育を受けて単純に日本に来ると想定するが、それだけではない。
  - ・日本について労働者を「受け入れること」と「出すこと」の話を同時にしているが、この2つは違うものである。
    - 1) 「受け入れること」：経済成長に貢献する人材を。
    - 2) 「出すこと」：相手側にとってどうかということ。  
→この2つは議論がかみ合うか。
  - ・つまり、いろんなテーマが混在していて、いろんな事実を知るにはいいが、本当に議論がかみ合うのか。
  - ・議論を最後に政策的リスポンスに絞っていく場合、どの政策に焦点を当て

るのか、前もって考えていた方がいい。

(5) 結論はどういう方向性になるのか。

(園田先生の回答) :

- ・教育と労働で人が動き始めているというデファクトについて、制度設計や計量分析、どこかに焦点を当てないといけない。
  - ・どういう報告者がありえて、どういう論点を出して、どういう議論ができるか、ようやくわかってきた。
  - ・市場的な状況というか、取引、意図的な契約を通じて人が結びつくことは多い。その中で、単なる市場的な状況以上のものが生まれているかどうか。
    - 1) 高等教育における「質」の保障の問題と、中の問題はひっついている。
    - 2) 政策的スタンスはいろいろ分かれている。
    - 3) 企業の外、政府の立場の議論と企業内労働市場の問題では、提言の内容が違ってくる。
- 最終的にはどこかに焦点を当てないと、第3セッションは成立しない。

(6) 「価値観」に関連する労働市場はありえる (白木先生)。

- ・日本ではハイスキルワーカー。
  - ・韓国はロースキルワーカー。
    - 1) 失業率が高い。
    - 2) 2つはエリートの考え。「肉体労働をしない」
- 結果として、日本と正反対の政策がある。
- ・労働組合の問題。

(7) アジア発の地域統合研究ということを発信する場合。

- ・欧州発の研究に当てはめて、どこまで当てはまるかということ議論するにとどまってはならない。
- ・アジアのデファクトをつかんで議論する。
- ・アジアがすでに持っていると考えられている共有された価値を考える。
  - 1) 遣唐使：あの時代には高等教育の地域統合はできていた。
  - 2) ヨーロッパの計画が「エラスムス」というのは、中世の遺産を利用しているということ。

(8) 「アジア統合セミナー」をどうやって教えるか。

- ・特に社会・文化領域を扱う際に。
- ・ぜひ1ヶ月後に教えてほしい。

(9) (園田先生) アジア域内にとどまらない傾向「能力的価値観」が広がる。

- エリートにとっては、不平等は仕方がないこと。  
→自分らは高等教育を受けたから。
- 職種による分断した労働市場を起こすのか。
- 「価値」の生成・誕生が人の移動を促進する。  
→単なる市場の問題ではないのでは？
- シンポジウムでは、デファクトとしての統合が進んでいるということを確認しながら、そのいろいろな問題点をどう政策的に対応していくのか、そのことによって社会統合がどうなるのかということ的前提とした議論を行う。

(10) (黒田先生) ヨーロッパの高等教育はある意味「再生」。

→アジアにおけるものはリバイバルなのか、どうかは興味深い論点。

- アジア独自の統合セオリーについては、アジアのアイデンティティという話は好きではない。多様性こそアジアであり、多様性の中の統合、ということを考えてもいいのではないか。

(文責:早稲田大学 G-COE:GIARI 特別研究員・上久保 誠人)